伝々夢詩

No.9　　2015/02/12

愛西学園・愛知黎明教育研究所通信　　発行責任　　佐藤廣和

＜『葦原』(弥富高校研修誌)『やすらぎ』(同衛生看護科機関誌)との出会い＞

研究所の仕事の一つとして、先生方が弥富高校や愛知私学の実践に関わって書かれた論文、レポートなどの収集を始めました。まず井上校長先生にお願いしたところ、以下のようなリストとコピー、データーを送って頂きました。

「倒れ、つまずき、それでも駆けた」『それぞれの旅立ち』1984年高文研
「奇跡の生徒たち　1987年文化祭”愛と平和”の記録」『葦原』創刊号1987年
「不死鳥のように　1988年生徒会活動の記録」『葦原』第2号1988年
「私立高校生フェスティバルの世界」『流れよ、教育の大河』1990年高文献
「高校生フェスティバルのなかでどんな力が発現したか」『教育』547号1992年国土社
「自己実現の快感なくして主体的表現はない！」『月刊高校生No．99』 1992年5月号高校出版
「看板をおろしたら教育が楽しくなった」『現代社会と教育　第5巻　教師』1993年大月書店
「開放・参加・共生の学校づくり」『講座　高校教育改革　第4巻　学校づくりの争点』1995年労働旬報社
「まちとつながる学校づくり―愛知私学の教育改革運動」
『東海発教育・子育てシリーズ　第3巻　学びあい育ちあいの学校づくり』1997年あゆみ出版

早速「奇跡の生徒たち」を読んでみました。昨年、本校の生徒や教職員をミュージカル「フット・ルース」に招いていただいた＜劇団すいせい＞の西田直木さんが高校生時代に取り組んだミュージカルの話が出てきます。西田さんの原点がここにあったのだと思いました。また、「不死鳥のように」では食堂のジュース自動販売機撤去をめぐる初めての全校一斉クラス討議、6月4日の全校「美化大作戦」と、当時を知らない私も目頭を熱くしながら、心を躍らせながら読みました。特に、全編にあふれている生徒に対する、とりわけ「やんちゃな」生徒たちに対するリアルで温かい眼差しが素晴らしいと思いました。「生徒はダイヤモンドだ！」という井上先生の確信の源がここにあるように感じました。そして、こうした本校の歴史を生徒総会実現に熱い思いを持つ生徒会執行部の生徒達にもぜひ読んでほしいと思いました。(『立葵』No.181参照)

最初に書いたように、**研究所では教職員の方々が弥富高校・愛知黎明高校・愛知私学に関して執筆された論文やレポートなどを収集したいと考えています。とりあえずは井上先生のものを参考にしてリストを、できれば現物のコピーをお寄せ下さい。**ミライムのメッセージで結構です。同意が得られれば、ファイル(または製本)して図書室などで教職員・生徒が閲覧できたらいいなと考えています。特に状態が良い『葦原』を探しています。心当たりがある方はお知らせ下さい。

＜一燈園・燈影学園参観記＞

2月4日、京都市山科にある燈影学園に卒業生の授業を見に行きました。燈影学園は「日本一小さな私立学校」と言われるように、小・中・高校生あわせて百人に満たない学校で、一燈園という生活共同体の中にあります。ここの高校を卒業した由佳さん(この学園では生徒も先生も、地域住民も「さん」づけで呼び合います)が三重大教育学部学校教育専攻に入学し、新入生12名が基礎ゼミをしている時、彼女が高校生活についてレポートをしました。

・津市の公立中学から燈影学園に入学し、3年間寮生活を送った。午前中は「作務」の時間で、風呂を沸かす薪を割ったり、繕い物をしたり、昼食の準備を手伝ったりして、授業は午後からと夕食後の7時まで。その後寮で自習。修学旅行は作務衣に手ぬぐいをかぶり、バケツと掃除道具を持って長浜市にある一燈園創設者西田天香(1872-1968、宗教家・社会事業家、政治家。元参議院議員)の生家を拠点に市内の家を回り、トイレ掃除をさせていただいた。(「行願」といいます)

「えっ、2泊3日の修学旅行がトイレ掃除？」「授業は午後から？」など、同級生や私はこれまで聞いたことがない高校生活に「？」が飛び交い、「一度見学に行こう！」と有志で行ったこともあります。大学・大学院の6年間を経て、母校の小学校に赴任したのが2年前です。その由佳さんがこの春で退職し、岩手県盛岡市に行くことになり急遽参観させてもらいました。

この日は11時半から一燈園で生活してきた松下さんから天香さんのお話を聞く会がありました。小学校高学年の子ども約30名は、松下さんからトイレ掃除の行願に出た時のことや、天香さんとのエピソードなどを30分間聞きました。午後は1時から体育館で集団遊び。1～6年生が異年齢で3グループに分かれ、ボール遊びや変形「泥巡」に興じました。

2時からは同じく体育館で高学年の剣道の時間。女子は別室で日本舞踊です。剣道をたしなむ由佳さんや事務員の方で小学生を指導します。一試合が終わるたびに紅白各組で寸評会がもたれ、先生や同級生からアドバイスが出されます。「始め！の合図とともに前に出る気迫がいる。伺うばかりではだめだ」など具体的な助言です。剣道は全く素人の私ですが、太刀筋はキレが良いのに前に出て打ち込む機会を逸し、打たれてからキレよく打ち返していたのが印象に残っています。由佳さんは試合の防具をつけるのを手伝ったり審判役を勤めていました。津市の道場で師範を務める父親とともに剣道を学んだ由佳さんの剣士姿を見るのは初めてですが、普段のおっとりとした立ち振る舞いとは別人のようでした。燈影学園にはイギリスから2名の女子高校生が留学していますが、今回は話す機会がなく、残念でした。一度見てみたいという方は相談して下さい。ユネスコスクールの認定も受けていて（全国で第2号と聞きました）外国との交流も盛んなようです。有料の宿泊施設、食事もあります。

”学びの概念砕き”って何やっとるんや？」「探究ではどんなことをしてるんや？」

2月7日夕刻から愛知父母懇OB会の新年会がありました。隣に座った寺内義和特別顧問から矢継ぎ早に質問を受けました。2月15日の授業改革フェスで「門脇氏と対談をするんだわ。」という前ぶりからの質問でした。いきなりの質問にたどたどしく答えると、

「職業体験のようなものか？」←「いや、それはインターンシップでするから別物です。」

「総合学習のようなものか？」←「う～ん、黎明独自のものなので…。」

この他、「探究基礎ではどんなことをするのか？」「週あたり時間数は？」など、こまごまと質問され酔うどころではありませんでした。それだけ黎明の教育に関心を持ってもらえるのはありがたいことだと思いながら、十分な説明が出来ない自分が腹立たしいかぎりでした。15日は別の研究会と重なっていて参加できませんが、対談の様子を聞かせて下さい。また、レポートをされる長坂先生、杉浦先生頑張って下さい。教材・通信などを出展する熊沢、冬部、原田、日比、舘、船戸、鈴木、田岡、谷、渡邉実の各先生、創意工夫満載でしょうね。全日2年学年通信「Imagination」の愛読者としては多くの人に手に取って読んでほしいですね。レポートする5人の生徒も頑張れ！JK8の生徒達がどんなレポートをするのか、特に「学ぶ意味を考えてみた」というレポートにはとても興味があります。私は残念ながら行けませんので、ぜひ話を聞かせてください。